

速報

第72回

小学館児童出版文化賞

が決定いたしました!!

受賞作

『風さわぐ北のまちから』

少女と家族の引き揚げ回想記』

遠藤みえ子／著 佼成出版社／刊

『恋とそれとあと全部』

住野よる／著 文藝春秋／刊

『ちいさなトガリネズミ』

みやこしあきこ／作 偕成社／刊

上記の通り受賞作3作品が決定いたしました。

正賞としてブロンズ像「わかば」（笹戸千津子作）、副賞として賞金100万円が授与されます

第72回「小学館児童出版文化賞」
最終選考結果のお知らせ

受賞作

『風さわぐ北のまちから
少女と家族の引き揚げ回想記』

遠藤みえ子／著

佼成出版社／刊

発行 2022年 6月30日

【概要】

1945年8月、日本の敗戦により、それまで日本の植民地だった朝鮮に暮らす日本人は、突然「外地」に取り残された状態になりました。11歳のれい子と家族は、朝鮮半島を二分した〈三十八度線〉の北側の港町・鎮南浦で、厳しい冬を迎えます。

寒さと食料不足、ソ連兵による略奪、北朝鮮の建国などの混乱の中、母と6人の子どもたちが生き抜き、日本へ帰り着くまでを描いた、奇跡の実話です。

【著者プロフィール】

釜山生まれ。6歳で倉敷へ引き揚げる。東京女子大学英米文学科卒。吉祥女子高校、都立高校で計31年間、恵泉女学園短大、東京女子大学で計17年間、非常勤講師として勤務。『スージーさんとテケテンテン』で、小川未明文学賞優秀賞を受賞。主な著書に『あじさい寮物語』（講談社）、『やなぎ通りのスージーさん』（PHP研究所）、訳書に『ハリスおばさんモスクワへ行く』（講談社）などがある。日本児童文学者協会会員。日本こどもの本研究会会員。バオバブ同人。

第72回「小学館児童出版文化賞」

最終選考結果のお知らせ

受賞作

『恋とそれとあと全部』

住野よる／著

文藝春秋／刊

発行 2023年2月25日

【概要】

めえめえ（瀬戸洋平）は下宿仲間でクラスメイトの女子サブレ（鳩代司）に片想いをしている。サブレは夏休み中に遠方にあるじいちゃんの家に行くのだが、それはある“不謹慎な、目的のためだ”という。

「じゃあ一緒に行く？」 「うん」

思いがけず誘われためえめえは、サブレと共にじいちゃんの家を目指す。

夜行バスに乗って、二人の〈不謹慎な〉、そして特別な旅が始まる――。

【著者プロフィール】

高校時代より執筆活動を開始。2015年『君の臍臓をたべたい』（双葉社）でデビュー。同作で16年「本屋大賞」第2位、Yahoo!検索対象“小説部門賞”など、数多くの賞を受賞した。著書に『また、同じ夢を見ていた』、『よるのばけもの』、『腹を割ったら血が出るだけさ』（以上双葉社）『か「」く「」し「」ご「」と「』』、『この気持ちもいつか忘れる』（共に新潮社）、『青くて痛くて脆い』（KADOKAWA）、「麦本三步の好きなもの」シリーズ（幻冬舎）などがある。

第72回「小学館児童出版文化賞」
最終選考結果のお知らせ

受賞作

『ちいさなトガリネズミ』

みやこしあきこ／作

偕成社／刊

発行 2022年11月

【概要】

トガリネズミは働き者。朝おきてから夜ねるまで、毎日きまった予定をこなし、つつがなく暮らしています。でも今日はひとつだけ、いつもと違うことがありました！ひとめ見たら忘れられない、つぶらな瞳のトガリネズミ。そのささやかでありふれた日常を、独特のおかしみと哀愁ただよう筆致で描きます。「トガリネズミのいちにち」「トガリネズミのあこがれ」「トガリネズミのともだち」の3話を収録した絵童話。

【著者プロフィール】

1982年埼玉県生まれ。武蔵野美術大学卒業。『たいふうがくる』（BL出版）で「ニッサン童話と絵本のグランプリ」大賞を受賞しデビュー。2012年『もりのおくのおちゃかいへ』（偕成社）で日本絵本賞大賞受賞。『よるのかえりみち』（偕成社）は Bologna Ragazzi 賞 2016年 Fiction 部門 Special Mention、NYタイムズ&NY公共図書館 The Best Illustrated Children's Books of 2017、ミュンヘン国際児童図書館 The White Ravens 2016 に選ばれるなど、海外からの評価も高い。他の作品に『ぼくのたび』（ブロンズ新社）、『かいちゅうでんとう』（福音館書店）などがある。

PRESS RELEASE

2023年 9月14日

【第72回小学館児童出版文化賞 選考経過】

今回は、2022年3月から2023年2月までに発表された、絵本(創作絵本・写真絵本など)、童話・文学(フィクション・詩・シナリオなど)、その他(ノンフィクション・科学絵本・図鑑・事典など)の出版物(翻訳・キャラクター・コミックスなどは除く)で、幼年ならびに少年少女に推薦したい優れた作品を対象として、事務局内に予選委員会を設け、選考にあたってまいりました。

選考に先立って、審査委員・作家・画家・写真家・各出版社・新聞社・児童文化団体・図書館・書店児童図書担当者・読者からの推薦を募りました。それに事務局が収集した作品を加えて予備選考を行った結果、以下の作品が今年度の候補作となりました。

これらの作品を、審査委員の荒井良二、鈴木のりたけ、館野鴻、富安陽子、森絵都(50音順)の5名の先生方にご審査いただき、9月14日の最終選考会におきまして、受賞作を決定いたしました

第72回 小学館児童出版文化賞 候補作品

(*作品名五十音順)

ジャンル	作品名	作者名	発行所	発行
読み物	『あした、弁当を作る。』	ひこ・田中／著	講談社	2023年2月7日
読み物	『宇宙食になったサバ缶』	小坂康之、別司芳子／共著	小学館	2022年7月5日
読み物	『風さわぐ北のまちから 少女と家族の引き揚げ回想記』	遠藤みえ子／著	佼成出版社	2022年6月30日
読み物	『恋とそれとあと全部』	住野よる／著	文藝春秋	2023年2月25日
読み物	『シャンシャン、夏だより』	浅野竜／作	講談社	2022年5月17日
読み物	『ぼくたちはまだ出逢っていない』	八束澄子／著	ポプラ社	2022年10月
絵本	『あんまりすてきだったから』	くどうれいん／作 みやざきひろかず／絵	ほるぶ出版	2022年6月25日
絵本	『さかなくん』	しおたにまみこ／著	偕成社	2022年5月
絵本	『ちいさなトガリネズミ』	みやこしあきこ／作	偕成社	2022年11月
絵本	『なみのいちにち』	阿部結／作	ほるぶ出版	2022年6月22日
絵本	『橋の上で』	湯本香樹実／文 酒井駒子／絵	河出書房新社	2022年9月30日
絵本	『PIHOTEK ビヒュッティ 北極を風と歩く』	荻田泰永／文 井上奈奈／絵	講談社	2022年8月9日
絵本	『へんしん ——すがたをかえるイモムシ』	桃山鈴子／作	福音館書店	2022年4月25日

PRESS RELEASE

2023年 9月14日

【小学館児童出版文化賞について】

「小学館児童出版文化賞」は、児童出版文化の向上に貢献すると認められる作品および作家を毎年選定し顕彰するものです。本賞は1952年に小学館創業30周年を記念して「小学館児童文化賞」として創設され、1960年に「小学館文学賞・絵画賞」に改め、1996年以後は「小学館児童出版文化賞」に引き継ぎ発展させてまいりました。未来を担う子どもたちのために、多くの優れた作品が出版されることを願います。この賞がそうした出版活動に少しでも寄与できればと考えます。

©小学館児童出版文化賞 公式サイト https://sho.jp/cpc_award